

36 ルーブル美術館と漫画 (2021年2月23日)

ルーブル美術館と漫画、遠くかけ離れているように思えるこの二つを結びつける「漫画プロジェクト」が、2005年から続けられています。ルーブル美術館と Futuropolis 社によるこのプロジェクトには、これまで四人の日本人漫画家が参加しました。

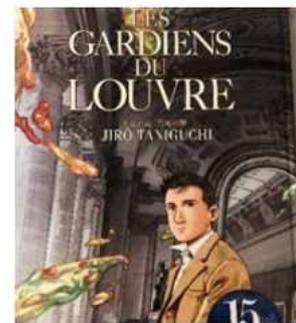
ルーブル美術館から依頼を受けた漫画家は、美術館の職員の案内で、一般公開されていない場所も含めて館内を視察します。そして、ルーブル美術館から着想を得たオリジナル作品とすることのみを条件として、漫画を制作します。形式も作者の自由ですので、日本の漫画家の作品は日本式に右開きになっています。

最初は、2010年に荒木飛呂彦による「岸辺露伴 ルーヴルへ行く」(Rohan au Louvre) が出版されました。主人公である漫画家の岸辺露伴が、日本人画家が描いた「この世で最も黒く、最も邪悪な絵」がルーブル美術館に収蔵されていることをある女性から聞き、美術館を訪れます。その絵の正体と画家に隠された秘密とは・・・。



© Coédition musée du Louvre éditions / Futuropolis

次は、谷口ジローによる「千年の翼、百年の翼」(Les Gardiens du Louvre) です。ルーブル美術館を見守ってきた「管理人」(Les Gardiens)が美術館の歴史を語り、歴史上の人物も登場する史実とフィクションが入り混じる作品です。貴重な美術作品を現代の私たちが目にすることができるのは、当たり前のことではないと気付かされます。



© Coédition musée du Louvre éditions / Futuropolis

松本大洋は、2017年に「ルーブルの猫」(Les Chats du Louvre) を発表しました。ルーブル美術館の屋根裏に住み着いている猫達の中の白い猫と、50年以上前に館内で消えた「絵の音が聞こえる」少女の物語。この作品の英語版は、漫画のアカデミー賞と言われるアイズナー賞 (The Will Eisner Comic Industry Awards) で、2020年の最優秀アジア作品賞 (Best U.S. Edition of International Material-Asia) を受賞しました。



© Coédition musée du Louvre éditions / Futuropolis

パリの日本大使館がフランスで見つけた日本

2018年に「夢印」(Mujirushi ou le signe des rêves)を発売した浦沢直樹は、この漫画プロジェクトに参加した世界的に有名な漫画家達が、すでに素晴らしい作品を発表していたので、ルーブル美術館から依頼されても気が進まなかったそうです。しかし、「イヤミ」を登場させるとのアイデアを思いつき、ルーブル美術館の担当者も賛同したことから、本格的に制作に取り



© Coédition musée du Louvre éditions / Futuropolis

組むことにしたと、あとがきの中で語っています。「イヤミ」とは、1960年代に漫画家の赤塚不二夫が生んだ漫画「おそ松くん」に登場するキャラクターで、フランスのことを「おフランス」(La Frââance)と言う気取った人物です。

これらの作品には、ルーブル美術館に展示されている有名な絵画が登場し、館内で一般公開されていない場所も描かれています。作品を読んだ後にルーブル美術館を訪れると、展示されている絵画や彫刻の一つ一つに物語があり、美術館には多くの秘密が隠されているように感じられました。現在は一時閉館中ですが、美術館が再開したら、展示物に隠されたストーリーを想像しながら見学するのも面白いかもしれません。

いずれの漫画も、日本語版が日本の出版社から出版されています。